

2023年6月1日

先日ある聖書の研究会に出席させていただいた。私自身はキリスト教信者ではないが、誘っていただいた方とは聖書を中心に私事などの話を何度かさせて頂いている。

この研究会に出席していた就学前の女の子が休憩時間などあっちこっち回って愛想を振りまいていた。私は直接その女の子と話をしたわけではないけれど、月並みかもしれないが、目がキラキラ輝いている姿に魅了された。子供の目の輝きはやはりとてもよかった。何よりも未来を見つめているような気がした。半面、私ではもうあんなに輝いた眼をすることができないことに寂しさを覚えた。こんな姿を見ながら、子供たちが何か質問してきたらなんと答えたら良いのだろうかと思ってしまった。どんな質問を我々大人たちにしてくるのだろうか？どんな答えをすればいいのだろうか？会って話もしないのにあれこれと考えてしまった。子供たちに私の知っていることを出来る限り誠実に話してやりたいと思ってしまった。

ただ後になって考えると決してこのことは子供たちにとってあまりよくないのではないかと思った。我々大人がやってしまうことは、自分が知っている知識を、子供たちに教えるのではなく、ややもすると押しつけになってしまうのではないかと思えてきた。

先人の知識と知恵を、やはり子供達に伝えたいと思うことが我々の方の自己満足になってしまうのではないかと思ってしまった。ましてや、こんな勉強をした方がいいよとか、そんな事はしない方がいいよとか。つい言ってしまうがちになる。やはり出来るだけ子供たちの自分の力で、世界の不思議を見抜いて、世界を知ってほしい。大人は可能な限り子供に干渉しない方がいいのではないかと思う。自分の力で疑問や課題を見つけ、物事を調べ、知ってほしい。特に大人が、あれがいい、これがいいと言ってはいけないのではないだろうか？

大人ができることは、彼らが自分の力で知識を得たり、考えたりするための環境を作ってやるだけでいいと思える。もちろん彼らの疑問に答えてやることも重要であるが、例えば図書館の利用の仕方、どんな風に調べれば彼らの疑問が解決できるのか等は教えてやることは必要かもしれない。大人の経験で、あれがよいとか、これはダメだとか可能な限り下手な経験は押し付けるべきではないと思う。

とは言っても、先人の知識、知恵を我々は利用してきたからこそいまの社会、文化の発展があったのも事実であろう。我々はこれらの文化の伝承の仕方を真剣に考えていくべきであろう。自然の成り行きに任せるのもよいかもしれないが！

場合によっては人類も絶滅危惧種となることを自覚しておくべきであろう！